

国防は最大の
福祉である
初代会長 高橋季義

國の支え

中井信夫元大阪府議会議長

関西防衛を支える会
(略称・関防会)

〒537-0013
大阪市東成区大今里南2-1-12 3階
TEL 06-6978-5011 FAX 06-6973-5865
発行人 新井信彦
編集人 小野元裕
印刷所 (株)新聞印刷

第93号

(夏季号)

令和6年8月1日(木)

(西暦2024年)

(皇紀2684年)

関西防衛を支える会 第27回 定期総会



挨拶する新井信彦会長

定期総会と懇親会

大阪キャッスルホテル
5月12日

大阪キャッスルホテルにおいて第27回定期総会が開催されました。総会の一部会則の変更がありました。が短時間で終了。その後、小林弘樹中部方面総監を防衛講話の講師としてお招きし、現在の自衛隊の教育状況や同盟国と連携した訓練、能登半島地震での救援活動についての報告がありました。元日に発生した地震

100人を超える参加者と懇親会深める



和やかな総会懇親会

震にもかかわらず迅速に対応してくださった自衛隊の皆様への感謝の気持ちが湧きます。今回の地震では多くの道路が寸断されたため、今までの救援活動とはかなり違った活動となったそうです。陸海空の協力が欠かせません。

その後の懇親会では、中部方面音楽隊による軍歌や戦時歌謡を中心とした演奏を披露いただきました。自衛隊らしく、力強く、格調高い演奏にすっかり聞き入っていました。新しい

関西防衛を支える会第27回定期総会 懇親会



中部方面音楽隊の演奏

く就任した新井信彦会長の挨拶に、私達も改めて自衛隊がより活動しやすい状況を作っていくかねほと感じた次第です。小林総監以外にも12人の自衛隊幹部の皆様にご参加いただき、また加田裕之参議院議員をはじめ政治家の方々も多数ご参加いただき、100人を超える参加者の皆様と楽しく懇親を深めることができました。



自衛隊への感謝の気持ちを込めて歌う松原美穂氏



会長就任ご挨拶

会員相互の親睦と友好深める

関西防衛を支える会 会長 新井 信彦

この度、「関西防衛を支える会」総会におきまして、第5代会長に就任致しました新井信彦です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

田清前会長をはじめ役員、会員の皆様のおかげで、会員の皆様から温かいご指導を仰ぎながら務めさせていただきました。この度会長に推挙され身の引き締まる思いであります。

これまで私は自衛隊をよく愛する一市井人として過ごして参りました。しかし昨年ご縁をいただき、副会長にとお声がかり、右も左も分からないまま

本会も発足して26年になりますが、これまで会の発展に尽力して参りましたが、これまでも自衛隊を支援し、敬意と感謝の意を表して参りました。

また、我が国は災害列島であり、有史以来度々なる地震・津波、台風に苛まれて参りました。今年年初の能登半島地震はまだ記憶に新しいもので、自衛隊の皆様は活動は全国民が注視し感謝するところであり、新しいことで、自衛隊の

民の方々と手を携え自衛隊の皆様が堂々と任務を遂行できるような微力ではありますが活動して参りたいと思っております。

さて本会は、これまで一貫して国家防衛のために、紛争、台湾、南シナ海、我が国の尖閣諸島をめぐる中国の覇権的活動、ロシアと北朝鮮の新たな軍事同盟と朝鮮半島の緊迫化など一触即発の事態にあると云って、戦後79年、今、我が国をも過言ではありません。

攻、イスラエルとハマスの紛争、台湾、南シナ海、我が国の尖閣諸島をめぐる中国の覇権的活動、ロシアと北朝鮮の新たな軍事同盟と朝鮮半島の緊迫化など一触即発の事態にあると云って、戦後79年、今、我が国をも過言ではありません。

本会は今後も民間の支援組織として、国防に真摯に取り組んでおられる政治に携わる先生方、心ある一般市民の方々に、

言うまでもなく国防は自衛隊、自衛隊員のみが担うものではありません。国家と国民一人一人が担うものであります。

なにとぞ前会長同様、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

好を深め時局の把握に努めて参ります。

関防会の歴史勉強会 中島サロンのご案内

(詳細は同封チラシをご覧ください)

担当 近森久主 濱野夕希子

第106回

日時 令和6年9月21日(土) 16時から
講師 山下裕貴氏 (元陸上自衛隊中部方面総監)
演題 「戦史から学ぶ経営戦略」
会費 6,000円 (未会員7,000円 懇親会費含む)
講話のみ 2,000円 (未会員3,000円)
会場 ニューオーサカホテル (地下鉄新大阪駅7番出口より30秒)

第107回

日時 令和6年12月14日(土) 16時から
講師 葛城奈海氏 (ジャーナリスト)
演題 「万世一系の皇統を守る意義」
会費 6,000円 (未会員7,000円 懇親会費含む)
講話のみ 2,000円 (未会員3,000円)
会場 ニューオーサカホテル (地下鉄新大阪駅7番出口より30秒)

秋の1泊研修ご案内

10月27日(日)・28日(月)

香川県にある陸上自衛隊普通寺駐屯地と徳島県にある海上自衛隊小松島航空基地を見学します。宿泊は金毘羅宮の近くですので、体力のある方はぜひ785段の階段を上ってください!

歴史勉強会 中島サロン

第105回
6月29日

内容です。当然この
ような内容をウクラ
イナは承認できませ
ん。

ウクライナ侵略戦
争によって2つの神話が崩れまし
た。1つは、核不拡散体制(NPT)
です。常任理事国(米英仏中露)
のロシアが核を使うと脅しを
かけているわけですから。ですが
ら、北朝鮮が核を手放すことには
いけません。2つ目は、核戦争を
恐れて軍事的に動かない米国の姿
を見てしまったことです。バイデ
ン大統領は、米国の軍事介入す
ればロシアと核戦争になる可能性
があると明言したのです。湾岸戦争
の時に米国は多国軍と一緒に関
いイラク軍を1カ月で放逐しまし
た。今と全く違います。

日本は核から国を守るために、
「米国の核の傘に入る」という道
を選んでいます。これに対して疑
念を持った人はいません。しかし、
今の米国を見て、日本人は米国に
対する信用を失いつつあると思
います。

今後の日本の安全保障と課題

元自衛隊統合幕僚長 河野克俊氏

ロシアの安全保障と統合幕僚長



2022年の侵攻
では、ウクライナ全
てを取ってやること
考えたのです。ウク
ライナはクリミア侵攻から意識を
変え、情報対策を万全にしました。
ロシアが侵攻してへんことが分
かっていましたので、ロシアは一
気にウクライナを占領できなかつ
たのです。

まずウクライナについてお話し
します。なぜロシアはウクライナ
に侵攻したのでしょうか。これは
プーチンの歴史観、世界観による
戦争なのです。プーチンは戦争の
前に「ロシア人とウクライナ人の
歴史的・一体的性について」という論
文を書いていました。ロシア人、ウ
クライナ人、ベラルーシ人は歴史、
文化、宗教も同じで三位一体と
いう考え方は、ソ
連が崩壊して、ロシ
アもウクライナもベ
ラルーシも別々の国
になってしまったた
め、これを元に戻さ
なければならぬとい
う考え方は、ロシ
アは2014年に
ウクライナだったク
リミア半島を併合し
ています。

韓国の場合、75パーセントの国
民が核を持つべきだと考えていま
す。なぜなら、北朝鮮はワシント
ンまで狙えるICBMを持ってい
ます。米国がワシントンを犠牲に

してまでソウルを守るわけがない
という考えです。慌てたのが米国
です。定期的に原子力潜水艦・空
母を韓国に入港させると言ってい
ます。日本も非核三原則を廃止し
て、米国との核シェアリングを考
えるべきだと思います。

中国は、第一列島線(日本列島
から南西諸島、フィリピン、南シ
ナ海まで)の内側は絶対に自分達
が感化する海域と考えています。
日米の艦隊が進出してきたら、第
2列島線(グアムの東側)と第1
列島線の間で叩く方針です。中国
は米国の影響をアジアから排除し
たいと考えていますので、いずれ
は第3列島線(ハワイのすぐ西)

の西については米国に口を出さ
せたくないということです。中国
は第一列島線の内側は絶対に自分
達のものにしたいと思っています
ので、香港、台湾、尖閣を押さえ
たいのです。香港は1997年よ
り50年間一国二制度を保つとい
う条件で英中が合意しました。しか
し、今の中国にとって第一列島線
の内側で騒ぎ立てる香港は絶対に
許容できないのです。そのため
国家安全維持法で押さえつけてい
るのです。

その時、尖閣はどうなるでしょ
うか。私は手を出さないと思いま
す。無人島なので台湾が占拠され
たら、尖閣も中国領土だと世界が
思い始めるでしょう。中国がもし
尖閣に侵攻したら、さすがの日本
も軍事行動を起すでしょう。し
かも軍事行動を起す可能性が
あります。

中国の行動を抑止するために
は、日本の防衛体制をより強固に
する、そして日米同盟を進化させ
ることが重要です。今の日本の集団的自
衛権のレベルは個別的自衛権とほ
んと変わりません。いざとなつ
たら米国のために動くことのでき
る解釈をできるようにすることが
憲法改正だと言えます。憲法改正
しか日本の生きる道はないと思
います。

航空自衛隊奈良基地祭



F15編隊のフライパス

快晴の下、6月1日に航
空自衛隊奈良基地祭が開催
されました。同基地は、昭
和31年9月に米軍キャンプ
の接収解除によって開設さ
れ、創設68年目を迎える関
西唯一の航空自衛隊の基地
です。今年は、航空自衛隊
創設70周年の祝賀も併せて
執り行っていました。

今年も基地祭は、例年ど
おり一般開放され、多くの
地元の人々を含めた来場者
が、装備品等展示を見学し
て大いに楽しんでいまし
た。

新井会長が参加し
た祝賀会食では、地
元選出の国会議員を
はじめ、各自衛隊協力団
体等の招待者及び防衛省
の関係部隊長が参加して
懇親を深めました。ま
た、観閲式では幹部候補
生約400人が若人らしく
元気に威風堂々とした姿
を披露していました。最
後は航空自衛隊の戦闘機
等が基地上空を飛行する
展示があり、この日の祝
賀ムードの絶頂を迎えま
した。なお、今年に来場
者数は、昨年度の倍の約
8千人と報道されていま
した。(神寄恋)



姿勢正しく整列



新井信彦会長(左)と
岡本秀史奈良基地司令



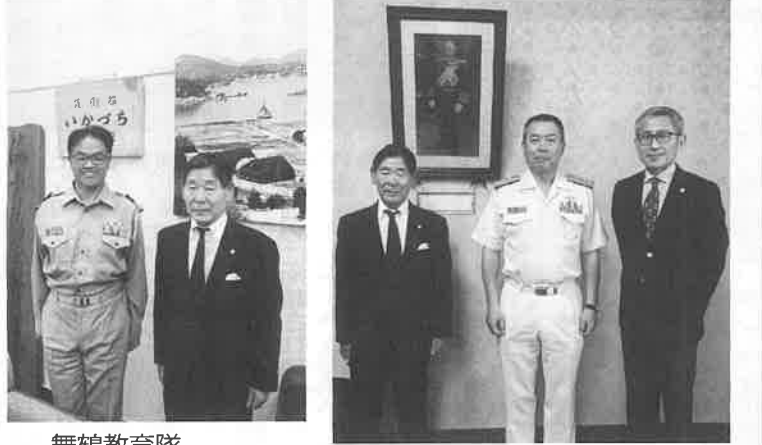
祝賀会食スタート



きびきびした行進

舞鶴地域を訪問

台風のような大雨が降りしきる
なか、5月28日に新井会長、時岡
北部支部長、菊池事務局長の3人
で舞鶴地方総監部、第4術科学校、
舞鶴教育隊、京都地方協力本部舞
鶴地域事務所を訪問しました。伊
藤総監は3月末に着任したばかり
で、当会長も5月に就任したば
かりで、訪問するのに大変適した
時期でした。



舞鶴教育隊 細田直人司令(左) 松浦正裕第4術科学学校長(中央)



舞鶴伊藤秀人総監(左から2人目)と金山哲治幕僚長(左から4人目)

新しい海上自衛隊員達が入隊し
たばかりだったので、幹部の皆様
もより力が漲っておられるよう
に感じました。

時岡北部支部長のお蔭で、1日に
4カ所も訪問することができ、大
変感謝しております。

I 陸上自衛隊の取り組み
国際社会は、グローバルなパワーバランスが大きく変化し、戦後最大の試練の時を迎え、新たな危機時代に突入しております。また、我が国が位置するインド太平洋地域は課題が多く、国際安全保障の焦点であり、日本はその最前線に位置しています。米中の戦略的対峙が益々先鋭化する中、戦後の安定した国際秩序の根幹を揺るがしかねない深刻な事態が発生する可能性が排除されません。このような戦略環境の変化を踏まえれば、これまで以上に我が国を防衛する能力を抜本的に強化させることが必要です。

令和4年12月16日に閣議決定された、いわゆる「安保関連3文書」の改定は、先に述べた戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面していることを受け、戦後の我が国の安全保障政策を実践面から大きく転換するものです。今回策定された新たな「国家安全戦略」は、政府としての横断的な対応の必要性から、外交、防衛に加え、経済安保、技術サイバー、情報等の国家安全保障関連に係る分野の政策に戦略的指針を付与しました。また、相手の能力と新しい戦い方という現実に着目した防衛力の構築を目指し、国民の命と平和、我が国の領土等を断固として守り抜くという省・自衛隊の覚悟の表れだと認識しております。

次に陸上自衛隊の統合・共同作戦下における戦い方等について説明します。まず、平素の段階においては、情報戦やサイバー攻撃への対処をはじめ、侵攻を抑止するため、関係機関との連携を通じ、侵攻対処の実効性を向上させます。あわせ

て、平素から南西地域へのプレゼンスの強化、同志国等との連携強化等を通じ、抑止力を強化します。そして、情勢に応じ部隊を速やかに南西地域に展開させることにより、我が国への侵攻は容易ではないことを相手に認識させ、事態の早期収拾及び事態拡大の抑制に努めます。万が一、抑止が破れ、我が国への侵攻が生じた場合には、統合・共同下において侵攻を阻止・排除します。侵攻阻止にあ

能力の向上及び自衛隊と各自治体、関係事業者等の連携強化を図ることを目的に自衛隊統合防災演習(05 JXR)を実施しました。訓練では、発災時の初動対応、人命救助、物資輸送等及びそれらに係る自治体等との連携を演習しております。令和5年度の災害派遣活動の状況について説明します。

令和5年度は、能登半島地震への災害派遣に加え愛媛県大洲市、広島県江田島市及び和歌山県すさみ町の山林火災に伴う災害派遣、岐阜県の大雪に伴う災害派遣

防衛講話 5月12日総会 陸上自衛隊・中部方面隊の 取り組みと 能登半島地震災害派遣

陸上自衛隊中部方面総監 小林弘樹氏



たつては、当初から侵攻地域に所在する部隊をもって侵攻を阻止しつつ、努めて早期かつ遠方で侵攻を阻止するため、相手の脅威圏外からスタンダード・オフ火力を発揮し、相手の艦艇等を撃破します。また、同時に、相手の艦艇に対し、海空自衛隊と協同して統合対艦攻撃を行うとともに、統合防空ミサイル防衛を実施します。

II 令和5年度の中部方面隊の取り組み
南海トラフ地震への対処

III 令和6年度の中部方面隊の取り組み
引き続き、南海トラフ地震への対処能力の向上を図るため、令和7年1月に06南海レスキュー実動演習を

行います。各関係自治体、事業者等と連携して訓練を行うとともに、訓練内容に能登半島地震への対応に係る各種教訓を反映予定であります。

令和3年度以来3年ぶりの実施となる令和6年度陸上自衛隊演習(06陸演)を行います。陸上自衛隊の任務遂行能力及び運用の実効性の向上を図り、抑止力・対処力を強化し、我が国にとって望ましい安全保障環境の構築に寄与することを目的に実施します。

このほか、米軍等との共同訓練を実施し、共同対処能力の向上を図ってまいります。

IV 令和6年度能登半島地震に伴う災害派遣

方面隊は、1月1日の発災後、石川県知事の災害派遣要請に基づき、当初、第10師団を主体とした派遣活動を開始し、人命救助、生活支援、施設支援、医療支援、PFI船舶支援等の派遣活動を行い、被災地の復興・復旧を支援してまいりました。統合任務部隊の解散後も第10師団を基幹として、中部方面隊内の各部隊、他方面隊等の全国からの増援部隊、本災害派遣のため編成した部隊等をもって派遣活動を継続してまいりました。

人命救助活動は、これまで捜索救助、1次避難所等への輸送により、合計1,042人の人命救助を行いました。隊員たちは、昼夜を問わず、発災後、速やかに現場に急行し、即時救援活動を継続して、たくさんの方々を救助してまいりました。

孤立地域の解消の状況については、今回の派遣活動において、道路が寸断された孤立地域の方々を避難所まで輸送するための誘導や孤立地域の方への食糧、燃料等の物資輸送のため、レジャー用特技を有する隊員を主体として遊撃隊を編成しました。彼らはヘリやバギーを活用し、道なき道を徒歩で移動して、孤立地域に入り、支援活動を行いました。自衛隊では初めてUGVと呼ばれる地上歩行型の無人機を活用して誘導支援も行いました。

衛生・医療支援の状況については、これまで、自衛隊の医師官、看護師等を現地に派遣して、684人の被災者に対して衛生・医療支援を行うとともに、720人の患者輸送を行ってまいりました。

この際、DMAT(災害派遣医療チーム)やJMAT(日本医師会災害医療チーム)等と連携し、訪問診療により避難者の方の体調管理や急患に対応し、災害関連死の防止に努めてまいりました。

入浴支援については、これまで、約40万8千人の方々を利用され、ピーク時には、19カ所もの地域において支援してまいりました。震災の影響で公衆浴場も軒並み休業状態となり、仮設のシャワーも設置されていまして、冬季という特性もあり、多くの方が湯船で体を温められる自衛隊の浴場を利用され、多くの感謝の声をいただきました。

給食支援については、これまで、約24万7千食もの給食支援を行い、ピーク時には、24カ所もの地域において支援してまいりました。避難者の方には、パンや弁当よりも、温かい自衛隊の食事が好まれ、多くの感謝の声をいただきました。

被災者のために精一杯活動
第102施設器材隊本部付隊
3等陸曹 岡島 友祐

私は能登半島地震に伴う災害派遣において、道路啓開等に任ずる第102施設器材隊の偵察班員として、輪島市大川浜を拠点とした活動に従事しました。

発災2日後の1月3日、舞鶴港から輸送艦「おおすみ」に乗艦して海上機動し、エアクッション艇Aにより大川浜に着陸後、オートバイで道路の被害状況を偵察しました。大規模な崖崩れや倒壊家屋など、予想を超えた被害を目のあたりにして、被災者のために頑張ろうと気持ちを新たにしました。その後、救援物資輸送の任務を担ってまいりました。

送の任務があり、避難所を訪れたところ、被災者の方々は苦しい避難生活の中で、決して十分な物資が届けられていないにも関わらず、笑顔で「ありがたい」と言っていました。

また、活動中、家族や友人からも励ましの連絡が数多くあり、改めて、被災者のために精一杯活動しようとの決意を新たに、また、自衛官として身が引き締まる思いでした。今回の貴重な経験を踏まえ、今後も自学研鑽と訓練に励み、国民の皆様への負担に配慮される自衛官を目指してまいります。

小さな力が大きな力につながる
第3後方支援連隊
第1整備大隊施設整備隊
陸曹候補生 陸士長 吉澤 夏凜

私は令和6年能登半島地震に伴う災害派遣において孤立地域に対するニーズ把握隊として能登町を拠点とした活動に従事しました。そこで私は、人と人との繋がりがもたらす影響力の大きさを感じました。実際に現地に行ってみると、避難されている方々の生活環境や、どこにどのような方が住んでいるのかなど分からなかったり、一人ひとりの小さな力がこのように大きな力につながったことにとても感銘を受けました。

しかし、日々の活動を通じて、現地で住民の方々とのお話を通じて現地の状況を把握することができました。なかでも印象に残っていることは、とある避難所へ

千僧駐屯地記念行事
5月19日

5月19日、こや訓練展示を見学し、その後、後援会場で元第3師団長である当会の山下裕貴顧問、鈴木純治顧問や1週間前に開催した当会の総会に出席下さった吉春隆史駐屯地司令にお礼を伝えるとともに、いろいろな話もできるとても有意義な時間を過ごしました。(加藤智久)

千僧駐屯地創立67周年・第4施設団創設63周年の記念行事に参加してまいりました。

この日のちよつと2週間前に開催した当会の総会に出席下さった吉春隆史駐屯地司令にお礼を伝えるとともに、いろいろな話もできるとても有意義な時間を過ごしました。(加藤智久)

大久保駐屯地記念行事
5月26日

5月26日、梅雨を通り越して、まるで夏が到来したかのような晴れ渡る空のもと、大久保駐屯地創立67周年・第4施設団創設63周年の記念行事に参加してまいりました。

この日のちよつと2週間前に開催した当会の総会に出席下さった吉春隆史駐屯地司令にお礼を伝えるとともに、いろいろな話もできるとても有意義な時間を過ごしました。(加藤智久)

春季例大祭 5月20日

新緑香る5月20日に英霊10万5千6百65柱が鎮まり座する大阪護国神社での春季例大祭に遺族・来賓・崇敬者・各種団体等、多数の参列者のもと厳粛かつ盛大に斎行されました。今日の日本の平和と繁栄があるのは尊い犠牲を払った英霊の神様のおかげです。我々日本人は感謝とお礼の気持ちを持ち続けなければいけません。8月14日、15日は「献灯みたままつり」が斎行されます。(山下弘文)

7月13日 阪神基地隊で見学会

潜水艦いそしお
いそしおの前で、大西孝子総務副部長

まや艦内
護衛艦まや

55式機雷

挨拶する吉春隆史駐屯地司令

マイダン(独立広場)には戦死者を追悼する国旗が増え続ける



ウクライナへの支援活動を続ける日本ウクライナ文化交流協会(八尾市山本町6)が6月30日、大阪市天王寺区の近鉄文化サロン上本町で「ウクライナ帰国報告会」を開いた。5月31日に日本を発ち6月9日に帰国するまでの10日間、ウクライナ

ウクライナへの支援活動を続ける日本ウクライナ文化交流協会(八尾市山本町6)が6月30日、大阪市天王寺区の近鉄文化サロン上本町で「ウクライナ帰国報告会」を開いた。5月31日に日本を発ち6月9日に帰国するまでの10日間、ウクライナ

ウクライナ帰国報告会

日本ウクライナ文化交流協会

近鉄文化サロン上本町



女性たちは毎日カムフラージュネットを編み、戦地へ届ける

「会う人ごとにお礼を言っ地を視察。写真、映像などを見せながら現状を報告した。同協会が2022年から始めているウクライナ西部・リヴィウにある避難所建設・運営状況も併せて説明した。今回日本から片道32時間以上かけてポーランドのワルシャワを経由し列車でウクライナに入った。同協会は昨年6月にもウクライナを訪れ帰国報告会を開いている。会場には100人近い参加者が熱心に耳を傾けた。

「ウクライナ国内では『支援疲れ』や『戦争に飽きてきた』という日本のメディアの報道に対して、事実が反映されていないという実感を持った。ウクライナの人びとはロシア軍を撤退に追い込みたいという意気込みをまだもっていることを知る事ができた。『戦争の悲惨さに胸が詰まる』ため息をついた。今回の現地視察を同行した社会福祉法人すばる福祉会(西宮市上田市5)の西定春理事長(77)は、日本から週3回現地へ使い捨てカイロを送った。現地を訪れた際は、「会う人ごとにお礼を言ってもらった」と語る西さん。これからも使い捨てカイロを送り続けていくという。今回の現地視察を通じて、感じなことを次のように述べた。



西ウクライナ避難所に日本から持ってきたこのぼりを掲げる

「ウクライナ国内では『支援疲れ』や『戦争に飽きてきた』という日本のメディアの報道に対して、事実が反映されていないという実感を持った。ウクライナの人びとはロシア軍を撤退に追い込みたいという意気込みをまだもっていることを知る事ができた。『戦争の悲惨さに胸が詰まる』ため息をついた。今回の現地視察を同行した社会福祉法人すばる福祉会(西宮市上田市5)の西定春理事長(77)は、日本から週3回現地へ使い捨てカイロを送った。現地を訪れた際は、「会う人ごとにお礼を言ってもらった」と語る西さん。これからも使い捨てカイロを送り続けていくという。今回の現地視察を通じて、感じなことを次のように述べた。



藤江正鎮宮司(中央)と記念撮影

海上自衛隊呉地方隊創設70周年記念行事 護衛艦 いずも体験航海



いずもの前で記念撮影

「いずも」は優れた航空機運用能力を有するとともに、近代化された情報関連機器を搭載し、高い指揮統制能力を有しており、乗員は艦の全能発揮を目指して日々訓練をしている。いつ有事が起ころうともおかしくない環境のなか、日本国を守っていただいている自衛隊に改めて感謝の思いでいっぱいになりました。(高村明美)

北部支部 第3回総会開催



挨拶する時岡利行北部支部長

第3回定時総会が6月16日に舞鶴市のホテルベルマーレで開催されました。本田太郎衆議院議員、舞鶴地方総監部の西村俊行防衛部長にも越したなき、興味深いお話を聞かせてもらいました。時岡利行北部支部長からは、退職自衛官の就職活動の支援、自衛官募集活動に会員の企業経営者や地域で活躍している方からの第二新卒該当者の情報提供希望の話がありました。時岡北部支部長を中心に支え、新しいアイデア等を出しながら防衛会の発展に尽力してまいります。



役員そろって記念撮影

東郷祭

東郷平八郎の命日 日清および日露戦争の勝利に大きく貢献した明治の偉大な軍人、東郷平八郎の命日である5月30日に大阪護国神社で「東郷祭」が開催された。中村総務副部長、菊池事務局長の2人が参加しました。ここには東郷平八郎の遺髪が保管されています。東郷の子孫の方々も参加し、共に偉大な戦績への感謝の念を深めました。

ウクライナでは、1日20時間前後の停電が毎日のようにあるため、生活が困難な状況です。そのようななか、考えました。隣国に攻め込まれないように国力を付け自立しなければならぬ、と。

(小野元裕)



いずも概観図

編集 後記

5月31日~6月9日、ウクライナ入りしました。ロシアによるウクライナ全面侵攻から3回目の現地入りとなります。首都キーウを視察した後、日本ウクライナ文化交流協会が建設・運営する西ウクライナ避難所へ。